



おかよう

発行元：岡山県児童養護施設等協議会「職員関連事業部会」

第4号 平成26年3月31日発行

会長あいさつ



会長：高橋 昌文

現在、我が国の社会的養護の9割を乳児院や児童養護施設が担っていますが、今後十数年かけて、里親及びファミリーホーム・グループホーム・本体施設が三分の一ずつ担う姿に変えていくというのが国の方針で、本体施設となる児童養護施設でも小規模化へと舵を切っています。そうした時代の流れの中で、施設が果たしていくべき課題は多岐にわたり、現状として目標に向かって順調に進んでいるとは言えない状況です。ですが、社会的養護が果たすべき一番の役割は、子どもの最善の利益を追求していくことであり、必ずしも小規模化、高機能化だけが児童養護施設に求められる役割ではないようにも思います。奇しくも岡山県は、石井十次、留岡幸助を輩出した福祉先進県でもあります。無制限に養育を必要とする児童を保護した石井十次のように、家庭の愛と教育の提供という理念を貫いた留岡幸助のように、目の前にいる子どものために、自分たちにできることは何か、すべきことは何かを、子どもと共に追求し続けることが、岡山県らしい児童養護の形であると感じています。課題は山積みです。けれどそれと同じだけ希望があります。主役は子どもであるという前提を忘れることなく職務に邁進していきましょう。

新任施設長紹介



【玉島学園】
施設長 田邊 弘

桜の花が咲き始めた頃、一度にたくさんの子どもの出会ううれしさでいっぱいになりました。この子どもたちのために何ができきるのかという不安も入り混ざりました。たくましく自然に生きる子どもたちから元気をもらって、笑ったり涙したりして生活しています。子どもたちのためにいろんな方々から、ボランティアでの支援やお志の援助をさせていただき感謝でいっぱいです。子どもたちの自立と安心して居心地の良い施設になるよう全力を注ぎたいと思っています。児童養護施設のことにはわからないままスタートしました。ご指導よろしくお願ひします。



【旭川乳児院】
施設長 平岡 文恵

4月に旭川乳児院の院長に就任しました。社会的養護施設の転換期の今、重大な役を引き受けるにはあまりにも未熟者ですが、旭川乳児院のこれまでをしっかりと受け継いでいきたいと思っています。

旭川乳児院は、これまで乳幼児が心身ともに健やかに成長できるよう支援することと、早期の家庭復帰を目指してきました。これは今後も大事なこととして取り組みますが、これからは旭川乳児院でのくらしが少しでも家庭的なものに近づく方向で努力をしていきます。どうか皆様、ご指導をよろしくお願ひいたします。



【南野育成園】
園長 樋口 俊司

平成25年4月から園長を勤めさせていただいております。

児童自立支援施設、情短施設、児童相談所勤務という岡山県職員を卒業後、児童養護施設の世界に入って5年目となりました。これまでの施設経験と違い、児童養護は二歳から十八歳までの児童が対象で、入所の理由もさまざまであり、子どもが抱えている課題も知的をはじめとした障害や、虐待、愛着などが複雑に絡み合っています。子どもたちの成長やそれぞれの発達段階における行動化に、目を見張られるやら驚かされ、改めて学びを強要される毎日が新鮮とも感じております。

直接処遇を担ってくれる若い職員さんと一緒に頑張りますから、どうぞよろしくお願ひいたします。

制度政策部会事業報告

部会長 高月 和紘

当専門部会では特筆すべき活動報告は無いが、1、岡山県警へ「児童虐待による逮捕事件の報道発表について、児童は児童相談所に保護されているとし、施設入所などの詳しい情報をマスコミに入れないよう」要望した。2、岡山市長選に対し大森まさお氏へ岡山県児童養護施設等協議会からの推薦状を手渡し社会的養護の現状を説明し、今後の協力を依頼した。3、児童養護施設等において、近年、発達障害を抱えた児童の入所が増加している。子ども達が安心して過ごすことのできる環境を整えるために職員配置の充実、障害を抱える児童に対しての専従職員等の配置加算を国へ要望していただきたいとの事を、平成26年度岡山県予算編成に関する陳情に合わせて、自由民主党岡山県議団と、岡山県保健福祉部長に要望書を提出し説明した。4、今特に取り組まなければならないことは、子ども子育て支援法が成立し、消費税率の引き上げも発表され、いよいよ長年にわたり要望してきた人員配置基準の引き上げがなされるか否かの決死の時です。これらを念頭におきながら各施設の関係国会議員に直接会う機会を設けたり、施設視察・見学に来ていただき児童養護施設等の実態をお話する等のアクションを取るべきと考えます。

職員関連事業部会事業報告

平成25年度 岡山県児童養護施設等新任職員研修会



「平成25年度 岡山県児童養護施設等 新任職員研修会」が6月13日（木）きらめきプラザにて開催され、岡山県児童養護施設等協議会に加盟する13施設30名の新任職員が参加されました。

午前中は、情緒障害児短期治療施設 津島児童学院 黒田先生を講師にお招きし「福祉のプロとして～支援者として成長するために～」と題し、講義をして頂きました。社会的養護を必要とする子ども達を支援する職場、福祉に関わるプロの支援者として成長するために大切な事柄を、家に例えてわかりやすく伝えて頂きました。合わせて、組織人としての基本的な5W2H、ハウ・レン・ソウや話し方、聞き方のポイント、文書作成やチームワークについて講義して頂きました。職について2カ月が過ぎ、少し慣れて悩みも出てきているこの時期に、今一度自分自身を見つめなおす良い機会となりました。

午後からは、各グループに別れ所属する施設のパンフレットを用いて施設紹介、自己紹介を行い1つの事例を元にグループ討議に入りました。討議では



ルールの違い、見立てや支援案、支援方法、日頃の悩み等様々な意見が出され、各グループに入っている先輩職員からのアドバイスを受けながら味のある討議が行われました。

今年はさらに、先輩職員からのフォローアップと他施設職員との交流を交わす中で、社会的養護に関わる支援者としての自覚と、モチベーションアップを図る事を目的とした「新任職員フォローアップ懇親会」を後日開催する事ができました。施設は異なっても子ども達の幸せを願う想いは同じであり、岡養の仲間として共に頑張ろうと決意を新たに持つ事ができた会でした。



成徳学校宿泊研修

夫婦小舎で日々子ども達と共に暮らす職員の姿から福祉の原点を学び、社会的養護を必要とする子ども達にとっての「生活環境の大切さの理解」と「生活力のある人材の育成」を図ることを目的とし、今年度初めて『岡山県立成徳学校宿泊研修』を企画・実施しました。

受け入れ人数の関係で児童養護施設職員5名のみでの参加となりましたが、平成25年9月10日（火）～12日（木）の2泊3日で予定通り実施されました。参加職員は各々振り分けられた寮に泊まり込み、子ども達と寝起きを共にすることで成徳学校の生活の流れと支援方法を自らの体験で学ぶことができました。さらに、元成徳学校校長であり、現南野育成園理事長の叶原先生と成徳学校職員による講義を取り入れることで、この研修は更に深みが増すこととなりました。

参加した職員からは、「今の自分を振り返り、見つめ直す良いきっかけとなった」「子どもたちの生活力の向上という部分に対して、児童養護施設も意識して取り組む必要があると感じた」等の感想が聞かれ、とても充実した表情で研修を終えることが出来ました。

今回の新企画に対し快く受け入れして下さいました成徳学校職員の皆様、本当にありがとうございました。



事業関連事業部会事業報告

児童福祉施設卓球大会

平成25年10月5日 岡山県立成徳学校体育館で「第53回岡山県児童福祉施設卓球大会」を開催しました。今年は小学3年生から高校2年生の52名の児童が参加し日頃の練習の成果を発揮しました。背の小さい小学生の一生懸命ボールを打ち返す姿や初めて卓球大会に参加する児童の諦めないプレーに心打たれました。また今年からルールを公式ルールに変更し、各施設でルールに沿った練習を行ってもらいルールでのトラブルを防ぐ事が出来ました。

今年から主催が岡山県社会福祉協議会から岡山県児童養護施設等協議会へ替わり、なかなか思うように準備ができていませんでしたが、新天地育児院梅里院長のお力をお借りしながら開催することができました。また当日は審判員として各施設から職員を派遣していただきスムーズな進行が出来ました。後援の山陽新聞社会事業団様をはじめ多くの方のご支援に感謝しております。来年も今年の実績を生かし子ども達が楽しめる大会になるよう努めていきます。



	成績	施設名		成績	施設名
小学生男子	優勝	新天地育児院	小学生女子	優勝	岡山聖園子供の家
	準優勝	新天地育児院		準優勝	新天地育児院
	第3位	新天地育児院		第3位	新天地育児院
	第3位	津島児童学院		第3位	若松園
	敢闘賞	津島児童学院		敢闘賞	若松園

	成績	施設名		成績	施設名
中学生男子	優勝	新天地育児院	中学生女子	優勝	若松園
	準優勝	新天地育児院		準優勝	新天地育児院
	第3位	新天地育児院		第3位	新天地育児院
	第3位	津島児童学院			
	敢闘賞	悲眼院			

	成績	施設名		成績	施設名
高校生男子	優勝	若松園	高校生女子	優勝	立正青葉学園
	準優勝	若松園		準優勝	立正青葉学園
	第3位	南野育成園		第3位	南野育成園
	敢闘賞	悲眼院			

● 中高生対象 調理実習 IN 蒜山 ●

平成18年度からスタートした中高生対象の調理実習。これまではふれあいセンターなどの調理室やデイキャンプ場を利用した数時間での企画でしたが、今年度は蒜山高原キャンプ場を会場に、1泊2日のキャンプを実施しました。8施設46名（児童28名、職員18名）の参加があり、テント張り・野外炊飯・星空観測・レクリエーションを行いました。テントの張り方から火の起こし方、包丁の使い方などの野外活動で、児童・職員共に初めてのことも多く、戸惑いながらも協力して行う中で、大自然の中で過ごす楽しさや助け合うことの大切さを体験することができました。夕食のカレーは「シーフード」「夏野菜」「チキン」の3種類。朝食はごはんのみそ汁、卵焼きにめざし。昼食はおにぎりと「蒜山焼きそば」に挑戦し、季節や地元の特徴をメニューに取り入れてみました。

天候にも恵まれ、大自然の中で頂くごはんの美味しさ、満点の星空に感動の声も多く、初めての取り組みは大成功に終わりました。今回の経験、反省を生かして来年度以降もより充実した活動が行えるよう企画・運営していきたいと思ひます。



● 中国地区児童養護施設児童球技大会 ●

今年度の児童球技大会は、平成25年8月20・21日に島根県松江市玉湯町にて行われました。岡山県合同チーム参加施設は、悲眼院・玉島学園・みのり園・若松園の4施設でした。試合の結果は、ソフトボール5位、バレーボール5位でしたが、暑い中、お互いに協力し楽しく合同練習から大会まで頑張ってプレーすることができました。

この大会への参加にご尽力下さいました関係職員の方々に感謝申し上げますとともに、今後とも児童の生活指導や余暇活動充実の為に協力をお願いいたします。



南野育成園 理事長 叶原 土筆先生 瑞宝単光章受賞

社会福祉法人南野育成園理事長、叶原土筆先生が平成25年春の叙勲で“瑞宝単光章”を受賞されました。これは先生が児童自立支援施設「岡山県立成徳学校」の校長として、また、全国組織の会長として事業を牽引してきた実績、そして、県職員退職後は児童養護施設の施設長としてまた法人理事長として活躍され、その長きにわたる児童福祉における功績が認められたことです。

また先生は「石井十次：石井のお父さんありがとう」「留岡幸助：大地の詩」の映画化にも尽力され、これら先人の今にも通じる様々な取り組みや示唆を、一般の人々にもわかりやすく“あなたに出会って、ありがとう”のテーマで語り部として県内を隈なく訪れておられます。



このたびの受賞をお祝いするとともに、先生におかれては今後ますます、後に続く職員に対してのご指導と叱咤激励をいただき、世の親や子育てに関心を持つ人々に、様々な気付きと元気を与えていただきたいと思います。本当におめでとうございます。



津島児童学院 施設長 黒田 みき子先生 厚生労働大臣表彰

平成25年11月15日、東京都にある日比谷公会堂（東京都千代田区）にて行われた平成25年度全国社会福祉大会で、津島児童学院施設長である黒田みき子先生に、社会福祉事業従事功労者として厚生労働大臣表彰が贈られました。

この表彰は、多年にわたり社会福祉の発展に功労のあった方々に対して表彰を行っているものです。

黒田先生は、日頃より子どもたちへの声掛けをはじめ、子どもたちが暮らしやすい環境を作ることに尽力されております。その黒田先生の姿勢がこの度の表彰に至った経緯であると考えております。

今回の黒田先生の表彰を受け、職員一同もより一層、子どもたちが元気に、にこやかに施設での生活や治療が進んでいくように努めて参ります。



心理部会事業報告

昨年度の心理部会は、「性教育・性問題への対応」というテーマで実践報告を中心に行ってまいりましたが、今年度は「子どもの育ち」「ケースワーク」に焦点を当てて行っています。

事例検討では、岡山市善隣館の友光さんに高校生男子の事例を発表していただきました。家庭の事情で養育者が変わったり、施設変更を経てきた中で「子どもがどんな生活をしてきたか、という整理。いつ、どこで、誰にどんな風に関わってもらって育ったのか」という情報が必要」などの助言もあり、子どもの育ちを整理することの重要性を考えさせられました。

また、施設心理職もケースワークを知っておく必要があるとの思いから、岡山県精神科医療センターの水島真寿美先生をお招きし、「ソーシャルワークの基本～子どもの育ちのニーズを満たす支援～」と題し、ご講義いただきました。

子どもへの支援の基本的な考え方としてあげられた「子どもが権利の主体であり、子どもが参画する」「子どもの身の上で起こったことに丁寧に向かい合い総合的、連続的に捉える」「子ども中心の情報収集」「関係者が共通のアセスメントの枠組みを持つ」などのポイントは、施設心理職がケアワーカーと共に子どもの育ちを支えていく上で大切な視点であると再認識いたしました。



平成26年度 西日本児童養護施設職員セミナー岡山開催が決定!!

標記の職員研修会につきましては、平成26年度は中国ブロックが開催担当となっており、4月の中養協代表者会議にて岡山開催が決定されました。これを受けて6月に第1回、10月に第2回の実行委員会を開き、各施設の施設長と実行委員が準備をすすめているところです。

期 日：平成26年9月8日（月）～10日（水）
場 所：メイン会場 岡山コンベンションセンター
（交流会場 ホテルグランヴィア）
大会テーマ：『今、開こう子どもたちの未来』
～晴れの国おかやまから～



平成25年度 大阪大会

「お・も・て・な・し」の心を持って、岡山大会をみんなで成功させたいと思います。ご協力どうぞよろしくお願いいたします!!

岡山市オレンジリボンキャンペーン 2013

岡山市では、平成19年度から子どもや子育てに関わりの深い団体で構成される実行委員会を結成して、地域ぐるみで子ども虐待防止のオレンジリボンキャンペーンに取り組んでおり、岡山県児童養護施設等協議会も活動に参加しています。

11月1日の児童虐待防止推進月間スタート記念式典を皮切りに様々な催し物が開かれ、その中で岡養協は、啓発資料を配布したり岡山市イメージキャラクター「ミコロ・ハコロ」の着ぐるみに入って子ども達とふれあったりしました。

11月24日には、岡山ふれあいセンターで第7回オレンジリボンフォーラムが開催されました。岡山出身で、オレンジリボンの活動にご賛同下さっている中西圭三さんによる親子ふれあいトーク&ライブがあり、中西さん作詞作曲のオレンジリボンキャンペーンソング「Here I am」やテレビ番組でお馴染みの「ほよよん行進曲」「ばわあっふ体操」などを聴いて、子どもから大人まで大変盛り上がっていました。

12月1日に岡山ドームで開催された第18回人権フェスティバル岡山では、来場者に布製のオレンジリボンバッジを作ってもらったりオレンジ色の風船を配ったりして、子ども虐待防止の啓発に努めました。

今後も子どもたちの笑顔のために、オレンジの輪がさらに大きく広がって欲しいと願っています。



12月1日 人権フェスティバル



11月1日 児童虐待防止推進月間スタート記念式典



11月9日 街頭キャンペーン



オレンジリボンフォーラム 中西圭三さんライブ



オレンジリボンフォーラム ミコロ・ハコロとカバ車

第64回全日本少年野球大会報告(児童自立支援施設の野球大会)

成徳学校野球部は、7月に行われた中国地区予選を優勝で突破し、平成25年8月26日～28日に福岡県で行われた第64回全日本少年野球大会で通算4度目の優勝を果たすことができました。1回戦は主催県福岡に対し8-4で勝ち、続く2回戦(10-3愛知)、翌日の準決勝(1-0東京)、決勝(8-4東京)と快進撃を続け、夏休みの最後の最後まで野球をすることができました。勝ち上がるには見た目のスコア以上に苦勞しましたが、持ち前の守備力、走力、そして成徳学校名物、最強の応援団と、成徳学校の全てを結集した力を発揮できた結果だと思っています。子どもたちも、1試合毎に急成長する姿を見せてくれました。最後になりましたが、皆様の応援、ご支援があってこそということは、忘れておりません。ありがとうございました。

野球部監督 渡邊 将信

第35回中国地区児童養護施設職員野球大会

第35回中国地区児童養護施設職員野球大会が、山口県下関市にある西京スタジアムと同補助球場を会場に平成25年9月5日・6日の二日間の日程で開催されました。岡山県チームは平成11年第21回大会で山口県チームと同率優勝以来の賜杯を手にしようと意気込んで臨んだ大会でした。

おかげさまで、予選リーグ、決勝戦と熱い戦いを展開し悲願の賜杯を手にすることができました。

大会に専念できるように留守を預かってくださった職員及び、子どもたちの応援に改めて感謝を申し上げます。

また、今大会では引き受け県である山口県が西部連合と東部連合で参戦、例年以上に盛り上がった大会となりました。

ありがとうございました。



中国地区児童養護施設女子職員バレーボール大会が開催されました。

平成25年10月15～16日、2日間に渡り第29回中国地区児童養護施設女子職員バレーボール大会が、広島県尾道市「びんご運動公園」を会場に開催されました。

岡山県からは2チーム(7施設14名)が出場しましたが、両チームとも一生懸命にボールを追いかけ、声をかけ合いながらチーム一丸となって試合に挑み、Aチームは3位入賞、Bチームは8位という結果でした。

試合を重ねていくごとに、チームの和が深まっていき、岡山県らしいチームができていたと思います。

来年度も、新たにチーム編成を行い、職員同士の輪が深められるよう頑張りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



平成25年度 全国児童自立支援施設職員研修会について

平成25年9月25日から27日までの3日間、岡山市内のピュアリティまきびを会場に、平成25年度全国児童自立支援施設職員研修会が行われた。

素晴らしい講師の先生をお迎えした講義や、旧職員と退所生による座談会などが行われた。特に、第2日目は6分科会に別れ、それぞれ児童自立支援施設における「暮らし」、「学校教育」、「アセスメント」、「他機関との連携」、「医療支援」、「作業活動」をテーマに講義が行われた。講師の先生方からは、豊富な経験による内容の濃いお話をいただき、子どもの自立支援における様々なヒントをいただくことができた。

最終日には岡山県立成徳学校の施設見学が行われ、約60名の参加があった。



編集後記

今年度もあっという間でしたが、皆様、子どもたちの為に尽力した一年だったと思います。

今号では、それぞれの部会活動報告の他に、お二人の先生の受賞お祝い記事や、職員球技大会等のトピックスを掲載させて頂きました。自分の施設だけでなく他施設にも目を向けて、岡養等の職員同士でさらに協力し合い向上し合っていけるようにとの思いを込めました。

昨年12月に発表された2013年を表す漢字一文字は

『輪』でしたが、私たちも一つの輪としてしっかり結びつき、より良い活動につなげていけたらと思います。

年度末のお忙しい中、広報誌作成にご協力いただきありがとうございました。次号ではさらに内容を充実させていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

平成26年3月

「広報誌おかよう」制作スタッフ一同

